

## 関西の観光・文化における将来像（案）

関西は、千数百年にわたる悠久の歴史の中で、洗練された日本の美意識や価値観、哲学が醸成されるとともに、古来より大切に継承されてきた歴史的、文化的価値の高い資源が数多く集積しています。

また、生活に根ざした付加価値の高いものづくりのイノベーションが生まれるなど、関西独自の生活文化や産業等の強みを有しています。

関西広域連合では、こうした関西の強みを活かし、官民一体による広域観光・文化振興を通じて、人々の豊かな人間性や創造性を涵養するとともに、地域経済の活性化、海外との交流の促進や相互理解の深化などに寄与してきました。

一方で、インバウンドにおいては、一部の地域に観光客が集中しており、いかに関西各地域を訪れていただけるか、周遊観光の促進が課題となっております。

さらには、コロナ渦の影響により、デジタル化の進展や旅行ニーズの変化、安心・安全な観光地づくりなど、関西を取り巻く社会・経済環境は大きく変化しており、ポストコロナ社会を見据え、世界のトレンドに素早く対応していくとともに、観光客、地域住民、観光事業者が安心できる「三方よし」の観光を目指していく必要があります。

また、文化庁の関西への移転を機に、文化庁との連携のもと、国と地方が一体となった新たな文化政策をはじめ、文化を基盤とした地域創生のモデルを発信するなど、関西の文化力で日本を元気にしていくことが期待されています。

本計画は、関西のもつ特質を踏まえつつ、近年の社会・経済環境の変化等に対応するとともに、国連の持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献や2025年の大阪・関西万博の開催、さらには万博開催後の新たな展開を見据えた2027年の関西の将来像として、次の5つの観光・文化の「ありたい姿」を目指すものです。

### 【ありたい姿（5つの方向性）】

#### 1 持続可能な質の高い観光の実現

世界のトレンドに目を向け、多様化する観光客のニーズを的確に把握し、戦略的なマーケティングによるプロモーションや安心・安全な観光地づくりを行うことで、関西を多くの観光客が訪れ、各地域の賑わいを創出するとともに、観光客、地域住民、観光事業者の三者が安心できる持続可能な質の高い観光を実現している。

## 2 関西の強みを活かした文化・観光の推進

世界中の観光客が、有形・無形の文化遺産をはじめ、暮らしに息づく伝統文化や生活文化など、奥深い関西文化の魅力を体感・体験し、各地域で新たな交流が生まれている。

また、この素晴らしい関西の魅力を後世に伝えていくための環境づくりが進んでいる。

## 3 大阪・関西万博を契機とした広域周遊・滞在圏の形成

大阪・関西万博に向けて、着地型観光の推進や新しい旅のスタイルの普及、ユニバーサルツーリズムなど関西から新しい旅の価値を創造し、関西の広域周遊力・長期滞在力を高めることで、万博開催後も多くの観光客を魅了する広域周遊・滞在圏を形成している。

## 4 関西移転の文化庁との連携による国際的な文化創造圏の形成

文化庁との連携のもと、国内外との交流を促進し、伝統的な文化芸術をはじめ、現代美術、音楽、舞台、マンガ・アニメなど幅広い関西の文化とAR・VR等のデジタル技術との融合など、新たな文化創造を世界に発信するとともに、関西広域連合の構成府県市、経済界、民間団体、文化施設、大学等との連携のもとで、あらゆる分野に文化の力が活かされている。

## 5 磨き上げられた地域の文化を基盤にした関西各地の活性化

誰もが地域の文化に愛着を持ち、日頃から文化に親しんでおり、地域の絆によって、地域文化が保存・継承される仕組みのもと、特徴ある地域の産業が生まれるなど、文化を基盤として地域が活性化し、インクルーシブな社会を形成している。